

### 第3分科会 大山寺周辺～大山開山1300年 座禅体験と周辺散策～

指導者 大山町教育長 鷲見 寛幸 様  
大山寺圓流院住職 大館 宏雄 様

第3分科会では、大山開山1300年を記念し、座禅体験と周辺散策を楽しみました。大山の豊かな自然や歴史に触れながら、自分達の住んでいる地域のよさを愛し、大切に子どもたちを育てていくことについて考えてみよう、というテーマでのワークショップを行いました。

大山は、『出雲の国風土記』に火神岳（ひのかみだけ）として登場する日本最古の神山として、人々の信仰を集めてきました。奈良時代の718（養老2）年、金蓮上人によって開山され、地蔵菩薩を祭った「地蔵信仰」や「牛馬信仰」が大山独特の信仰へと発展したことが知られていますし、修験の聖地として、最盛期には100を超える寺院にて、3000人余りの僧兵が修行に励んでいたと伝えられています。

また、志賀直哉の「暗夜行路」には、夜明けの大山が描かれていることでも知られています。

開山から1300年の節目の年ということで、大山にかかわる様々なイベントが開かれ、山の日には皇室の眞子様をお迎えし、記念式典が行われました。

AM8:05、コンベンションセンター前に集合し、バスに乗って出発しました。乗車前に配布した“よなごの水”についての話を聞いたり、バスガイドさんの詳しくためになるお話に聞き入ったりしているうちに、あっという間に大山登山口まで到着しました。大山寺に近づいてくると、道路脇にたくさんのお地蔵さんの姿があり、地蔵信仰の山だということを実感できます。



大山の登山口に到着です。今年は記念の年ということで、さらに多くの方が登山をされているようです。折しも、台風20号が近づいており心配していましたが、天候はなんとか持ちそうなので、予定通り開催することにしました。出発地点である米子駅前、台風前のためか蒸し暑く朝から気温が高かったのですが、大山に着くとまるで別世界。大変涼しく、台風の到来を予感させるような大きな風が吹き、大山の木々を揺らしていました。そのためかいつにも増して、独特の雰囲気にも包まれているように感じました。時々足を止めずにはいられないほどの強い風も吹いていました。



まずは座禅体験をするために重要文化財である大山寺阿弥陀堂へ向かいます。案内をしてくださる鷲見 寛幸先生。教育長とられた現在でも、大山小学校の子どもたちと毎年夏に登山をされており、登山の様子についてのお話や、大山でたくさん見られる蛍についてのお話などを聞かせてくださいました。大山頂上付近にも蛍が生息していますが、意外にも、頂上では何を食べて生きているのか、その生態はよく分かっていないそうです。

また、先生は植物についての本を出されているほど大変お詳しく、阿弥陀堂までの短い距離を歩く間にも、たくさんの植物を見つけては説明をしてくださいました。時折ゴーッと勢いよく吹く風や、木々が揺れて葉がこすれる音、セミの声などにも耳を傾けながら、ゆっくりと散策を楽しみます。



鷺見先生を先頭に、ジャコウソウがたくさん生えている茂みの中を、大山の森林の中へ入って行きました。この辺りはリスの生息地でもあります。姿こそ見えないものの、リスや野ネズミが食べた跡が残るクルミが落ちており、みんなでクルミ探しをしました。リスが食べたクルミは、きれいに半分に割れていますが、野ネズミが食べたクルミは、両側にかじった跡があるということを知りました。



普段は園の子どもたちと一緒に、自然の中で木の実探しなどを楽しんでおられるであろう参加者の先生方ですが、この日は大人だけでクルミ探し競争です。大変盛り上がり、見つけた時の嬉しそうな皆さんの声が森に響きます。リスが食べたものと、野ネズミが食べたもの、両方見つけた方もおられました。



【リスが食べたクルミ】



【大山寺 阿弥陀堂】

クルミ探しを終え、座禅体験を行う阿弥陀堂へと続く石段の方を見上げると、すでにご住職が、扉を開けて待っていてくださいました。

ドキドキしながら靴を脱ぎ、自然の光だけが入ってくる、薄暗いお堂の中に入りました。大館 宏雄住職から大山や大山寺の歴史についてお話を伺いました。

1300 前に開山された大山は、長らく僧侶の修行の場でした。明治時代の政策によって廃仏毀釈の運動が広がり、厳しい弾圧を受けてからは、全盛期には 100 ほどあった寺院のほとんどがなくなりましたが、大山寺は復興を許された

数少ない寺院とし残されてきました。山津波により倒壊するも再建。多くの方のご尽力と、その壮大で長い歴史を、お堂の中で思い描くだけで神聖な気持ちになれました。



そして、いよいよ座禅についてのレクチャーを受け、座禅体験へ。ユーモアを交えながらのご住職のお話、リラックスして臨むことができました。目を閉じると、お堂の中に入ってくる風の音だけが聞こえます。国の重要文化財に指定されている阿弥陀如来坐像、脇侍の観音菩薩、勢至菩薩に見守られながら心を落ち着かせ、各々自分と向き合いながら 15 分ほど瞑想しました。天台宗の場合は、希望者の



【阿弥陀如来坐像・観音菩薩・勢至菩薩】

み警策を受けることができます。希望者は、組んでいた手をほどき、胸の前で手を合わせて住職が来られるのを待ちます。初めて座禅を体験するという方がほとんどでしたが、目を閉じていると、たくさんの方が背中を叩いていただいております。音が、「パシッ、パシッ」と次々に聞こえてきました。教えていただいた通り、リラックスした姿勢をとって警策を受けると痛みは感じません。座禅後は、心がすっきりと軽くなったような感覚になられた方もあったかもしれません。感じ方は人それぞれだったと思いますが、

大山の自然に包まれた静寂の中で、慌ただしい日常を離れ、集中

することのできた貴重な時間でした。  
また、座禅をする際の呼吸法は、日々の生活の中にも取り入れることができるということも教わりました。心落ち着かせたい時、迷った時、この座禅体験で学んだことを生かしていけそうです。



心が落ち着いたところで、お堂から出ると、早速、鷺見先生がお堂の周りに生えている木々の方へ誘導してくださいました。見上げてみると、木の上方に穴が開いていました。ムササビのお家だそうです。お目にはかかれませんが、ご住職のお話では、よくムササビの声が聞こえるそうです。

名残惜しい気持ちでしたが、ご住職にお礼を言って、阿弥陀堂を後にしました。

妖怪の天井画で有名な園疏院は現在公開されていませんので、中には入りませんが、いつか機会があったらぜひ行ってみてください。



【利生水】

ここからは、山道を通って大山寺本堂までの道程を散策します。初めに「利生水」という水が湧き出る場所に立ち寄りました。行基菩薩が入山した時に湧かせたと言われている水です。そこへたどり着く間にも、昔に寺院があったであろう痕跡があり、至る所に大山の歴史を感じることができます。

大山、そしてその周辺にはきれいな水が湧き出る場所がたくさんあります。この水は、延命長寿、五穀豊穰などのご利益があると言われ、人だけでなく牛馬なども利用していたそうです。また、髪がきれいになるということで、よく女性が利用していたという話も聞きました。水は湧き出していない状態でしたが、大山と人々との生活やかかわりを表す場所のひとつです。



大山寺までは、頂上に向かって歩くのではなく、山沿いの道を横へ横へとどんどん歩いていきます。狭い道を歩くため、1列になって散策です。途中、雨がさーっと降りましたが、一瞬で止み、胸をなで下ろしました。森の中を歩いていたため、ほとんど濡れることもなく、むしろ心地よく感じました。大山に守られながらの散策でした。



【南光河原】

歩いていくと、南光河原に出ます。この時期でも氷が解けずに残っている場所があるという大山。皆さん思わず川に手を入れ、水の感触を楽しみます。長い時を経て流れ出てきた水は、ひんやりと冷たく、暑かった今年の夏の疲れが吹き飛ぶようでした。



【大山寺本堂】

南光河原から大山寺本堂まではすぐに着きます。廃仏毀釈によって壊された後に、信者の寄進により再建されたという本堂。建物に掘られた彫刻の数々もすばらしく、当時の人々の思いや願いが伝わってくるようです。



【宝牛】

本堂の敷地内に入ると牛の銅像「宝牛」が出迎えてくれます。牛の霊を慰めるために、鼻ぐりの銅を集めて作られた像です。この牛を触りながら願い事を1つだけ念じると叶うそうですが、何個も願い事をすると、1つも叶わなくなるそうです。願い事を絞って、皆さん牛を触っておられました。



ふと見ると、先ほどお別れしたご住職が待ち構えておられ、一同驚かされました。私達が散策をしている間に阿弥陀堂から先回りして待っていてくださり、最後の最後までお世話になる形となりました。ご住職、そして鷲見先生のお人柄により終始場が和み、あたたかい気持ちになれたワークショップとなりました。

時間の関係で、大神山神社など、一部寄れなかった所もありましたが、大山寺本堂の階段を降りた所から続く石畳を歩き、最後に立ち寄ったのは大山寺宝物館霊宝閣。大山寺の貴重な宝物が収められ、その歴史、仏教美術について知ることができる施設です。5月20日「大山開山1300年祭」開創法要で大山寺に奉納された記念刀も、期間限定で展示されていました。ほんのわずかな滞在時間ではありましたが、貴重なものを目にすることができました。



【博労座駐車場から見た眺め（日本海と弓ヶ浜半島）】

あっという間に時間が過ぎ、帰りのバスに乗り込む時間です。バスが待つ博労座の駐車場の辺りは、江平安時代から江戸時代にかけて発展し、明治時代にも賑わった「牛馬市」が開かれていた場所です。駐車場へと向かう途中、振り返って大山を見上げると、山陽から流れてきた雲が大山の頂に当たり、そこで留まっていました。これ以上先は行かせまい、と私達の土地を守ってくれているかのような、頼もしさを感じます。改めて、台風が近づいていることを思い出しました。

この土地に住む人は、よく、『大山さんのおかげ』という言葉をお口にします。台風の被害が比較的に少ないのも、雲の流れをせき止めてくれるほど雄大な大山があるおかげです。この度も、参加者の先生方や運営に携わったスタッフ全員の思いが通じたのか、大山に守られながら、無事に大会を終えることができました。ありがたいことです。

短い時間の中ではじっくり見れなかった場所などもありましたが、十分ゆっくり過ごせましたよ、という温かい声もいただき、参加者の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。登山に興味を持っておられる方もたくさんおられたようですので、ぜひまたいつか、足を運んでみてください。

大会に参加してくださった方の中には、ご自身やお知り合いが豪雨災害の被害に遭われた方や、ボランティア活動に従事された方もあったかもしれませんが、ほんのひと時でも大山で過ごした時間が癒しとなれば…という思いでいっぱいでした。

みなさんがお住いの地域にも、それぞれの土地ならではの素晴らしい歴史や文化、自然があります。子どもたちにそれを伝えていく私達が、まずはその良さをしっかりと感じるからこそ、子どもたちの心をより豊かにしていくことにつながっていくことなのでしょう。何よりも、自然の中でみなさんと過ごしたことでリフレッシュし、新たなパワーを得て明日からまたがんばれそうな気がしました。

ご縁あって、一緒に米子・大山でのひと時を共に過ごしたみなさん、お世話になった講師の先生方、本当にありがとうございました。